

望ましい集団活動を通して、児童の自主性や主体性をはぐくむ活動の工夫

大友 真紀

I はじめに

特別活動の目標として学習指導要領には、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」と示されています。さらに平成23年度からは、「よりよい人間関係を築く力」「社会性の基礎の育成」の重視が挙げられました。

そこで今回の研究では、一人ひとりの児童が互いのよさや可能性を認め生かし、伸ばし合うことができるような集団活動を行い、お互いの関わり合いを通じて自己の生き方についての考えを深め、それぞれを生かし合う力を育成していくことを目標として取り組もうと考えました。そのためには、望ましい集団活動を通して自己有用感を高め、児童が主体的に活動するようしていくことが大切だと考えました。そこで、グループワークトレーニングを活用した授業実践を行い、個々の児童が互いのよさや可能性を発揮し、より良く成長できるような素地をつくっていかうと考えました。

II 研究仮説と研究の方法について

1. 自己有用感を高める

学級活動の中で、一人一人の思いや願いが尊重され互いのよさを認め合う体験をすることで、児童同士の関わりが増え所属感や連帯感が生まれるのではないかと考えました。そこで、グループエンカウンターを取り入れ児童同士の関わりを深め、クラスの仲間と協力して活動する楽しさや、受け入れられているという安心感を得させることで自己有用感を高めていきたいと思えます。

2. 自主性や主体性を育む

話し合ったり協力して実践したりすることで、自分の役割や責任を果たし、自主的・主体的な態度を育てることができるのではないかと考えました。児童会行事（ひばりフェスティバル）の目標を達成するために話し合い、協力して実践する中で責任感や自主性・主体性を育てていきたいと考えました。

III 実践報告（グループエンカウンターの取り組み）

（1）児童の実態

新学期が始まってから1か月が経ち、児童の様子が見えてきました。素直でまじめで何事にも一生懸命に取り組む反面、物静かで自ら声をかけたり行動したり、表現したりすることが苦手です。また、失敗したらと不安を持ち、恥ずかしがってのびのびと自由に活動できない児童が多くいます。一方、友達の間違いには寛容で、優しく声をかけ接することができます。小学校生活最後の1年間、児童同士が互いの個性を認め合い助け合いながら、積極的に活動できるようになって欲しいと思えました。

そこで、1年間の計画を立て、学期ごとに重点を決め取り組んでいくことにしました。

1学期・・・所属感を高める	<仲間づくり>
2学期・・・関わりを深める	<協力・責任感>
3学期・・・自己有用感を高める	<認め合い>

(2) 各学期の取り組み

<1学期：仲間作り>

仲間づくりに必要なことは、まず自分を理解すること、そして友達を理解することであると考え、エンカウンターを選択しました。

① 「わたしのコマーシャル」

活動のねらい「自分のいいところを知り自信が持てるようにする」

4月当初、自己紹介を兼ねて行いました。成果は、自分のことをふり返り、よく考えることができました。発表の後「いいね。」と声をかけ共感的な態度で聞くことで、聞いてもらえる安心感を得ていました。また、友達が好きなことなどを知り普通の会話のきっかけになっていました。

② 「これから生きていくために大切なことは」

活動のねらい「自分自身の大切にしたいことを知る」

並べた理由を考えることで、自分の価値選択の特徴を知ることができます。夢に向かって頑張るために、また友達とのつながりを大切にするためになどそれぞれ理由を考えることができました。児童の感想には、人それぞれ大切なことが違うことを知ったということや、その順番にした理由を聞いて納得できたということが書かれてありました。また自分が並べた結果に驚いたという感想もありました。

これから生きていくために大切なことは

名前 _____

●カードはのりでは

このようにならべた理由

(よ) 卒のゆめが消防士だから。目標に向かって行きた！
自信と責任は人をたすけると責任を持つ自信をもたないと人をたすげられないから。

ふりかえりシート

名前 _____

◇今日の活動はどうでしたか。

() よかった
() だいたいよかった
() あまりよくなかった
() よくなかった

◇今日の活動でどんなことを学びましたか。

人それぞれが大切にしている事はちがうけど、自分で生きていくために大切なことを決めてその決めたことを守っていくと思いました。... さんの意見は私とはちがったけどとてもよくわかりました。みんなの意見が聞けて良かったです。

③ 「聖徳太子ゲーム」

活動のねらい「ひとりの力では難しいことをグループの協力によって成し遂げ仲間意識を持つことと友だちの話を聞こうとする受容的な態度をもつこと」

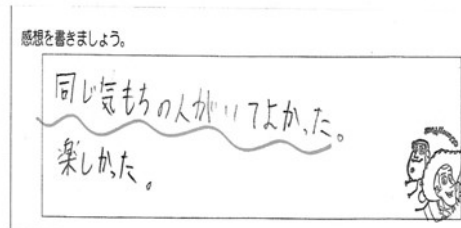
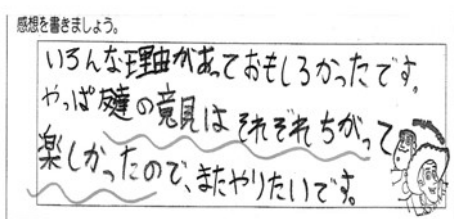
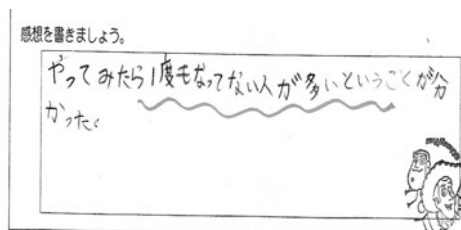
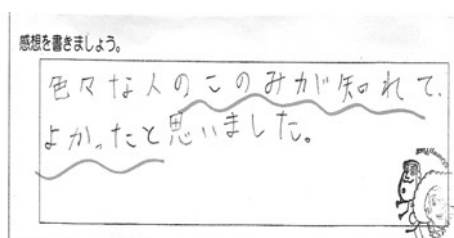
1日1グループずつ、朝の会で行いました。担当のグループは、朝休みの時間に準備をしました。

実践してみて、問題を考えたり役割を分担したりして協力して取り組む様子が見られました。聞く側も集中してよく聞いていました。「分からない」という反応が返ってくると、グループで相談して言い方を変えたり声の大きさを変えたりして協力することができました。児童からは「もっとやりたいな。」「次やるときの言葉を考えた。」と楽しんで活動していたことが伝わってきました。

④ 「何を選ぶ」

活動のねらい「友達の考えや気持ちを知り、自分と同じ考えだったり違っていたりすることを認め合うこと」

活動の様子をみて、4つに分かれるときにだれと一緒にいいのか、どきどきしているのが伝わってきました。顔を合わせたときには安心した顔でにこにこしながら友達の話を聞いていました。ふり返りでは、友達の好きなものを知ることができたや、理由がちがって楽しかったという意見もありました。個性や考え方の違いに触れることができたようです。



⑤ 「私はだれでしょう？」

活動のねらい「個性の尊重と、お互いの思いがけない一面を知ることによって友だちに親しみをもつこと」

項目には、係や委員会・クラブをたして、考えるヒントとしました。活動の様子をみると、一人一人のことを思い出し正解は誰か一生懸命に考えていました。なかなか正解を見つけられず、誰のことなのか悩んでいる児童が多くいました。児童のふり返

りには、「最初は正解を見つけるのが難しかった。」「異性の解答が難しかった。」「日頃の会話や様子を思い出して答えた。」という感想が多かったです。中には、学級の仲間のことがほとんど分かっていなかったということに気がつき、これから仲間との関わりを深めて友達を増やしていきたいという感想もありました。

1 学期の成果と課題

仲間づくりを意識した活動を中心に取り組んできた結果、多くの児童が友人関係の輪を広げることができました。グループワークの活動をきっかけに、他者への理解が深まり、休み時間の会話が少しずつ増えていき一緒に遊ぶ姿が見られました。また、友達の考えにふれたことで、自分の考えを整理したり深めたりすることができました。児童の中には、「紙に書いても実行しなければ意味がない。自分に自信がないけどちょっとずつ自信をもっていきたい。」「自分が伸びることも大切だな。」という感想をもち、自己理解の深まりも感じられました。

課題は、自分からなかなか声をかけられないという児童が数名いたことです。2 学期には運動会や修学旅行など大きな行事を控えているので、クラス一丸となって取り組めるように支援していかなければならないと考えました。

<2 学期：協力・責任感>

児童会行事（ひばりフェスティバル）への参加を通して、仲間との協力性とそれぞれに任された仕事をやり抜く責任感も育てていこうと考え、そのための力を引き出し合うエクササイズを選択して行いました。

○ 関わりを深めさらに協力性を高めていくためのエクササイズ

① 「サイコロトーク」

活動のねらい「出た目のテーマについて話をする中で、お互いのよさや個性を知ること」

人前で話したり、自分なりの言葉で伝えたりするのが苦手な児童が多いので、夏休みの思い出をこのエクササイズで話してもらいました。話のテーマは「楽しかったこと」「がんばったこと」「悲しかったこと」「うれしかったこと」「恥ずかしかったこと」「思い出にのこっていること」です。児童にとっては、どの目になるかドキドキだったようです。終わった後は、「みんないろいろな経験をしているな。」「ぼくも花火大会行ったよ。」と共通の話題で話が弾み、仲間のことを知るよききっかけになっていました。

② 「色鉛筆を忘れちゃった～気球編」

活動のねらい「自分もっている情報を正確に伝え、そして正しく聞くことの重要性に気づくことと協力の大切さについて学ぶこと」

児童の感想から、「言いたいことを分かりやすく伝えようと努力した。」「みんな耳をかたむけて聞いてくれた。」「色をまぜるとこの色になると自分の意見が言えた。」「協力して楽しくできた。」など、グループのみんなで達成感を感じることができました。

活動の様子を見ていても、「〇〇さんの持っている色だね。」と声をかけあったり「だれかチューリップの情報もってない？」と声を広げたりしていました。児童間の関わりを深めるよい活動になったと感じました。

6年振り返りカード

()月 ()日 (火) 曜日

学習のまとめ
 みんなと仲よくできて、言いたい事が
 け、こう言えました。みんなもすく
 話して、聞いてくれたり、言ったり
 してくれて、すごく楽しかったです。
 班の人たちと協力して、ていねい
 に、ぬり、会話もたくさん出来た
 ので、班でいるのが、もっと楽しく
 なりました。次やる時は、もと
 話したりしたいです。今やったのは
 協力できて楽しかった、ので、今後は
 むずかしいので、やってみたいです。

名前

6年振り返りカード

()月 ()日 (火) 曜日

学習のまとめ
 なかよく楽しくできたと思います。けんか
 とかもなかったです。他の人のヒントを
 聞いて自分の紙に書いてあることをしっ
 かりと伝えて色ぬりができたと思っ
 ます。それから、他の人の話しもよく聞いて
 ジャンジャン色をぬれました。あと、
 私が「聞いて。」と言うとみんなしっかり
 聞いてくれていたのがうれしかったです。
 感想は、ゆびさげたりしない言葉
 だけで伝えるというのは本当におたり
 まえのことだけで実際にやってみると
 けっこう難しかったです。でも楽しかったです。
 次やるときは、ルールをしっかり守って、自分の
 言いたいことを伝えて、他の人のことをしっ
 かり聞いて楽しくできたらいいと思います。
 また、やりたいです。

名前

③ 「共同絵画（無言チームワークゲーム）」

活動のねらい「言葉を使わずに相手の気持ちを察する経験をすることと自分の気持ち
 がどう伝わるのかを感じる事」

活動中は、仲間がかいている絵を見て驚いた顔をしていたりにこにこしたりしてい
 ました。児童の感想には、「10分は長いようで短かった。」「伝えたいことがうまく伝
 わらなかった。」「仲間がいいたいことが分からなくて難しかった。」とありました。中
 には「友達と話ができることのうれしさを知ることができた。」とありました。確かに、
 班ごとに話し合うときはいつも以上にぎやかに、そして楽しそうに話をしていたの
 が印象的でした。

6年振り返りカード

(12)月 (1)日 (月) 曜日

学習のまとめ
 ぼくは、木家をかきました。家の屋
 木根をかく土易戸をミスして
 しまいました。けれど、^{人か}
 うまくカバーしてくれました。
 テントと木があまり上手でできな
 かったけど、^{人の書いた}
 キャンプファイヤーが上手だったので
 ました。

名前



④「〇〇といえば」

活動のねらい「学級の友だちのよさを見つけ、いろいろなよさをもっている友だちがいることに気づくことができることと、友だちから見つけてもらった自分のよさを知り、さらに伸ばしていこうとする気持ちを高めること」

活動中は、すらすら書いていく子もいれば、教室を見渡して顔をじっと見ながら悩んでいる子もいました。時間内に書ききることができず悔しそうな顔をしている子もいました。今回は全員で回し読みをしました。自分の名前を見つけると、「え、そうかな。」と驚いたり「また同じところにあった。」と笑顔で見たりしていました。「先生、～な人のところに5回もあった。」と報告してくれる児童もいました。児童の感想には、「一人一回というのが難しかった。」「そういえばこうだなと考えながらできて楽しかった。」「そう思われているんだなと思うとうれしかった。」とあり、友だちのよさに気づき、また友だちに教えてもらった自分のよさに自信をもつことができました。「次にやるときには、頼りになる人のところに入れるようにがんばりたい。」と目標をもつ児童もいました。

友だちのよさを発見することができましたか。このエクササイズをして、感じたこと・考えたことを振り返りましょう。

このエクササイズをして8ヶ月の間でみんなのことを、だいたいわかってきたんだなということを感じました。みんなを見て自分もいろいろなところであって、それぞれが見がたがあるんだなと思いました。



友だちのよさを発見することができましたか。このエクササイズをして、感じたこと・考えたことを振り返りましょう。

やる前は「簡単」だと思っていて、やってみるとすごく難しかったです。でもこの〇〇といえば...をやってクラスみんなの良いところや、得意なことなどを発見することができたので良かったです。難しかったけれど、楽しくみんなのことを考えることができたので、学期の終わりごろにもう1度やりたいです。〇〇といえば...をやって気づいたこと、発見したことを忘れずに残りの小学校生活を楽しくみんなでおぼりたいです。

〇〇といえば

名前

◇学級の中には、いろいろな友だちがいます。次のテーマで思いうかべるのはだれですか。1人1回だけ、名前を書きこんでみよう。

	元気な人	正直な人	がんばる人	やさしい人	そうじが上手な人
想像力が豊かな人	好奇心おうえいな人	ひかえめな人	落ち着いた人	人助けができる人	歌声がきれいな人
とても明るい人	器用な人	運動が得意な人	いろいろ考えている人	みんなを楽しませてもらえる人	感情豊かな人
行動力がある人	しんちょうな人	頼りになる人	いきいきしている人	字が上手な人	友だちをつくるのが上手な人
ていねいな人	笑顔の似合う人	しっかりしている人	おだやかな人	素直な人	ごめんなさいがきちんと言える人
	よく気がつく人	ありがとうがきちんと言える人	自由な人	話をよく聞いてくれる人	

○ ひばりフェスティバル（児童会行事）への参加を通して

ひばりフェスティバルという児童会行事は、全校で行うお店屋さんごっこのようなものです。3～6年がクラスで2～3のお店を開き、お店を運営する人・お店をまわる人に分かれ、前半・後半に分かれて行います。異学年との交流を通して思いやりの気持ちを育てることや児童の主体的な態度の育成をねらいとしています。

ひばりフェスティバルは、クラスみんなの協力が不可欠な活動です。みんなに楽しんでもらうためにはどのようなお店がよいの、ルールはどうするか話し合い、準備・役割を分担し、それぞれが任された仕事を責任をもって行わなければなりません。2学期の重点である、関わりを深め、協力することの大切さや責任感を育てるのによい機会であると考えました。自分たちで企画・運営することで、主体的な態度を育てることもつながります。

①お店を考える

1年生から6年生までみんなに楽しんでもらえる遊びを考えました。

まずは、それぞれがやりたいと思った遊びを挙げていきました。イントロクイズやブラックボックス、目隠しお絵かき、魚釣り、国旗当てクイズなどたくさんの遊びを出しました。そこから、様々な条件を考慮し精選していきました。1つ目は、低学年でも楽しく遊べること。2つ目は、児童会から提示された約束、ごみはなるべく出さないこと。この2つを満たす遊びはどれか話し合っていました。国旗当てクイズは社会を学習していないから難しいだろうという意見が出ていました。また、1年生だと知らない曲が多いのではないかという意見がでて、「いろいろクイズにして、好きなジャンルを選んでもらおう」というクラスの意見に落ち着きました。

学級会のふり返り

名前 ()

議題 ひばりフェスティバルのお店

自己評価 ○ ○ △

自分の意見を発表することができましたか？	○
友だちの話をしっかりと聞きましたか？	○
司会の人が進めやすいように協力しましたか？	○

今日の学級会でいいと思う友だちの発言は何ですか？

みんな → いろいろクイズは、いろいろなジャンルから選ぶから、低学年がやりやすい。

感想 自分がやりたいゲームのよさをしっかりと伝えていたから。

私は国旗当てクイズを出したけど、低学年のこともし、しっかりと考えられたから、次の発表に生かそうと思いました。

学級会のふり返り

名前 ()

議題 ひばりフェスティバルのお店を考える

自己評価 ○ ○ △

自分の意見を発表することができましたか？	○
友だちの話をしっかりと聞きましたか？	○
司会の人が進めやすいように協力しましたか？	○

今日の学級会でいいと思う友だちの発言は何ですか？

みんなの、目かくしお絵かきは、ゴミが出ないのでいいと思います。かいいなと思いました。理由は、ゲーム内容にあるゴミを出さないを、目かくしお絵かきは、完全に満たしているから。

感想 自分の意見をわざわざ言えてよかった。その意見にみんなが賛成してくれてうれしかったのでこれからも意見を言いたいです。

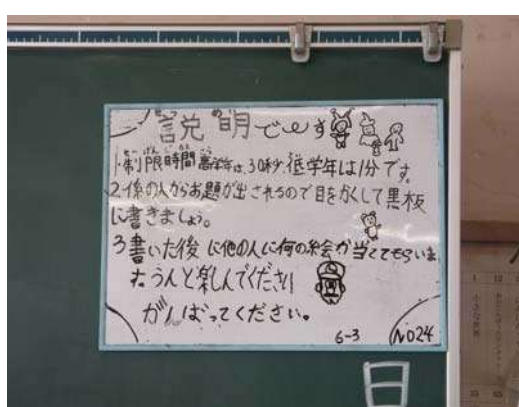
②準備：ルールを考え、役割を分担する

6年生の他のクラスで、いろいろクイズと同じような内容のお店を考えていた班があったので、「目かくしお絵かき」「文字バラバラクイズ」「わたしはだれでしょう」の3つに決め、3グループに分かれ、遊び方やルールについて話し合いました。前半・後半に分かれ、役割を分担して活動に取り組むので、みんなですっかりルールを確認するようにしました。

そして、それぞれが任された仕事に取り組みました。お題はみんなで持ち寄って選んでいましたが、1年生にもわかるものをと考えると大変だったようです。絵をかくのが得意な人は看板作り、話をするのが得意な人はルール説明、声大きい人は呼び込みというように、それぞれの持ち場でしっかり活動ができました。

フェスティバルが近づくと、自分たちがお客になり実際にお店をやり、「こう話したほうが分かりやすいよ」や「ルールを書いて分かりやすくしよう」など改善点について話し合っていました。

活動の様子



③ふり返り

活動のねらい「友だちと協力し自分の役割を責任を持って果たすことと、友だちのよさに気づき、自らも主体的に活動すること」

- (1) 自分の仕事をがんばることができたか。
- (2) 友だちと協力して仕事をしたりまわったりできたか。
- (3) 低学年に優しく接することができたか。
- (4) よかったこと・気がついたこと・感想。

以上の4観点についてふり返りました。

児童の感想には、「自分の仕事だけでなく、手が空いているときは他の人を手伝ったりできた。」とあり、自分の仕事に一生懸命に取り組んだことや欠席した子の分まで積極的に活動できたことが分かりました。また、「仕事をしているときに低学年や周りの人が楽しそうだったので優しくできたと思った。」とあり、低学年の子におもしろかったと言ってもらえたことも、達成感につながったことも分かりました。他の人に認めてもらえるということが何よりもうれしいことだと、感想を読んで感じました。「自分の行きたいところだけでなく、友だちの意見も聞いたりして。」と友だちを思いやる行動がとれたり協力したりしたりすることが、けんかをなくすことにつながるといふ深い気づきをした児童もいました。ひばりフェスティバルを通して、学級の団結がさらに高まりました。

6年振り返りカード

(11)月(7)日(月)曜日

学習のまとめ
 ぼくたちは、目かくしお絵書きをました。
 ぼくは、じゅんぎのとき、かん板の絵を書きました。
 ぼくが絵を書いていて美しい絵があつて人になつたので友だちが書いてくれて協力してできました。それにはぼくの絵は自分でがんばつてきました。ぼくたちのグループはみんな優しいので低学年にもやさしくできたと思います。
 ひばりフェスティバルを、おえて、みんなけんかがなく楽しくやっていたのでよかったです。みんなが協力してやると楽しくけんかがなくなるという気がついたので、これから協力したいと思います。

6年振り返りカード

(11)月(17)日(月)曜日

学習のまとめ
 ぼくは自分の仕事がよくがんばれたと思います。理由は、自分がやらなければいけないことができたと思うからです。そして友だちと協力してできたと思います。それはけんかやもめ事が無かつたし、仕事のときもスムーズにお客さんの出入りができたからです。ぼくはある一年生のグループが位になってとてもよこさんでくれてそのような面で低学年に優しく接することができたかなと思いました。ぼくが一番やおもしろかつたのは4年2組の都道府県クイズで、いっぱい答えられて気持ちよくなつたからです。ぼくは小学校最後のひばりフェスティバルを楽しくできたなと思いました。

6年振り返りカード

(11)月(17)日(月)曜日

学習のまとめ
 自分の仕事は、かん板で「学校を」と声を出しながらまわっていました。
 さんといふにまわっていて、一年生の子がよくぼくたちに声をかけてくれました。さんと協力して仕事ができ、友だちといふに行きたい所に回ったりすることができたのでよかったです。低学年に優しく接することができたと思つた。低学年も話ができて、文字パズルクイズをやつてくれたりおもしろなつと声をかけられたのがうれしかったです。ぼくは最後のひばりフェスティバルを楽しくできたと思います。

6年振り返りカード

(11)月(17)日(月)曜日

学習のまとめ
 私は、リーダーではなかつたけれど、自分の思つたことを提案したり、店番の時は、低学年にも、分かりやすく、優しく説明をし、片付けもみんなと協力し、頑張つてできました。
 なので、今日のひばりフェスティバルでは、いきたい所にたくさん回れ、グループで楽しめました。
 小学校生活最後のひばりフェスティバルだったけれど、目標のとおり、うんと楽しめたと思います。

2 学期の成果と課題

目的に合ったエンカウンターを行ったことで、児童は、改めて友だちのよさについて考えることができました。一緒に作業したことで連帯感が生まれ、より一層友だちを大切にするようになりました。だれに対しても優しく接することができるようになり、進んで声をかけるようになりました。1 学期には、クラスの人に声をかけるのも苦手だった児童が自ら手伝いを申し出たとき、彼の大きな成長を感じました。3 学期、まもなく卒業する児童たちが自信をもって中学校に進学できるよう、これまでの頑張りを認めていく活動を行っていきたいと思います。

(3) 実践をふり返って

研究のテーマ、「望ましい集団活動を通して、児童の自主性や主体性をはぐくむ活動の工夫」を通して、自分がどのような児童を育てたいのかを考えたとき、思い浮かんだのが困難なことにぶつかったときに「困った、助けて」といえる子、そしてそんな仲間を見捨てない子でした。そのためには関わりをもつということが大切だと考えました。今回の実践を終えて、自分がめざす児童像にせまることができたのかふり返ってみたいと思います。

- ・ それぞれが理解を深めた、友だちのよさ・自分のよさを生かした活動ができるようになってきました。
- ・ 互いに認め合う発言が普段の会話の中にもみられるようになりました。(〇〇君は××が得意だから。それは△△さんが詳しいよ。)
- ・ 困っている子がいると「一緒にやろう」と声をかけ、「大丈夫、やってみなよ」と励ます姿が以前より多くみられるようになりました。
- ・ クラスのためにと考え自分から立候補したり、みんなで取り組むように声をかけたりする児童が出てきました。(よびかけ実行委員やります。休み時間に大縄しよう。)
- ・ 仲間を信頼して任せるといった雰囲気ができてきました。(アルバムのコメントよろしくね。)

子どもたちには、これからも自分のよさ・友達のを大切にしながら自信をもって人と関わり、自分の未来を積極的に切り開いてほしいと願っています。私自身も人との関わりを大切に、このような学びの場を与えてくださった方々、ご指導くださった方々に感謝し、これからも学び続けていきたいと思っています。

<参考文献>

- ・ 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 平成 20 年
- ・ 『エンカウンターで学級が変わる 小学校編』図書文化社 1996 年
- ・ 『エンカウンターで学級づくり 12 か月 小学校高学年』明治図書 2006 年
- ・ 『人間関係を豊かにする 授業実践プラン』小学館 1997 年
- ・ 『協力すれば何かが変わる 続・学校グループワークトレーニング』遊戯社 平成 6 年